

肺炎球菌ワクチンで肺炎予防 65歳になったら「肺炎球菌ワクチン」を!



肺炎球菌はその名の通り、肺炎を引き起こすことが多い菌で、特に高齢者や幼児にとって重症な肺炎を起こすリスクが高いといわれています。

また、喘息やCOPD、糖尿病、慢性的な心臓・腎臓・肝臓などの病気を持っている人や、免疫力が低下している人なども重症化しやすいとされているので注意が必要です。重症化すると呼吸困難や高熱、全身のたるさなどの症状が現れ、**場合によっては命に関わることもあります。**

さらに肺炎球菌は、中耳炎や副鼻腔炎、髄膜炎など様々な病気も引き起こすことが知られています。

肺炎球菌によるリスクが高い人

- ・65歳以上の高齢者
- ・免疫力が低下している人
糖尿病、がん、免疫抑制剤やステロイド治療を受けている人
- ・慢性疾患をもっている人
心臓や肺、腎臓、肝臓などの慢性疾患をもっている人
- ・喫煙者
- ・幼児

当てはまる人は
特に注意するっぴ!



とっても怖い、肺炎球菌による肺炎

厚生労働省の統計によると、2022年に亡くなられた人の死亡原因で肺炎は第5位でした。肺炎で亡くなった人の97%が65歳以上であり、**肺炎はがん・心臓病・脳血管疾患と並んで高齢者の主要な死亡原因を占める病気**です。

肺炎は様々な病原体が原因で起きますが、**肺炎球菌は肺炎の原因で約25%を占めており、肺炎の原因で第1位**とされています。

高齢者や慢性疾患などの持病がある人は免疫機能が低下しているため、肺炎球菌が肺へ侵入しやすくなり、肺炎にかかるリスクが高くなります。



肺炎の発症、重症化の予防にはワクチン接種が有効

肺炎球菌に対しては、ワクチン接種によって肺炎の発症、重症化の予防が期待されています。そのため、**65歳以上の高齢者や免疫力が低下している人**には、肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されています。

<肺炎球菌ワクチンの種類>

肺炎球菌には90種類以上の型があり、そのうち感染しやすい種類に対してワクチンが作られています。現在3種類のワクチンがあり、それぞれ特徴があります。**23価ワクチンは効果が長続きしないため、5年後の再接種が推奨**されていますが、**15価/13価ワクチンは1回の接種で長期間有効**とされています。

- ・23価ワクチン・・・23種類の肺炎球菌に対する抗体を作り出すことができます。
- ・15価ワクチン・・・15種類の肺炎球菌に対する抗体を作り出すことができます。
- ・13価ワクチン・・・13種類の肺炎球菌に対する抗体を作り出すことができます。

<肺炎球菌ワクチンには定期接種と任意接種があります>

65歳以上の方は、**定期接種(23価ワクチン)**で、**自治体による公費助成**を受けることができます。

13価や15価ワクチンは自費の任意接種ですが、長期の予防効果が期待されており、23価ワクチンと併用することで、より高い肺炎予防効果が得られます。



詳細は
「大分市 肺炎球菌ワクチン」
で検索!

肺炎はとっても怖い病気ですので、肺炎予防のために日常的な感染対策、健康管理などはもちろんのこと、高齢者やリスクの高い方には肺炎球菌ワクチンの接種をお勧めします。

当院では23価ワクチンの定期接種のほか、5年経過後の追加接種や15価/13価ワクチンの任意接種も実施しております。ワクチンの種類により接種の間隔や費用が異なりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。